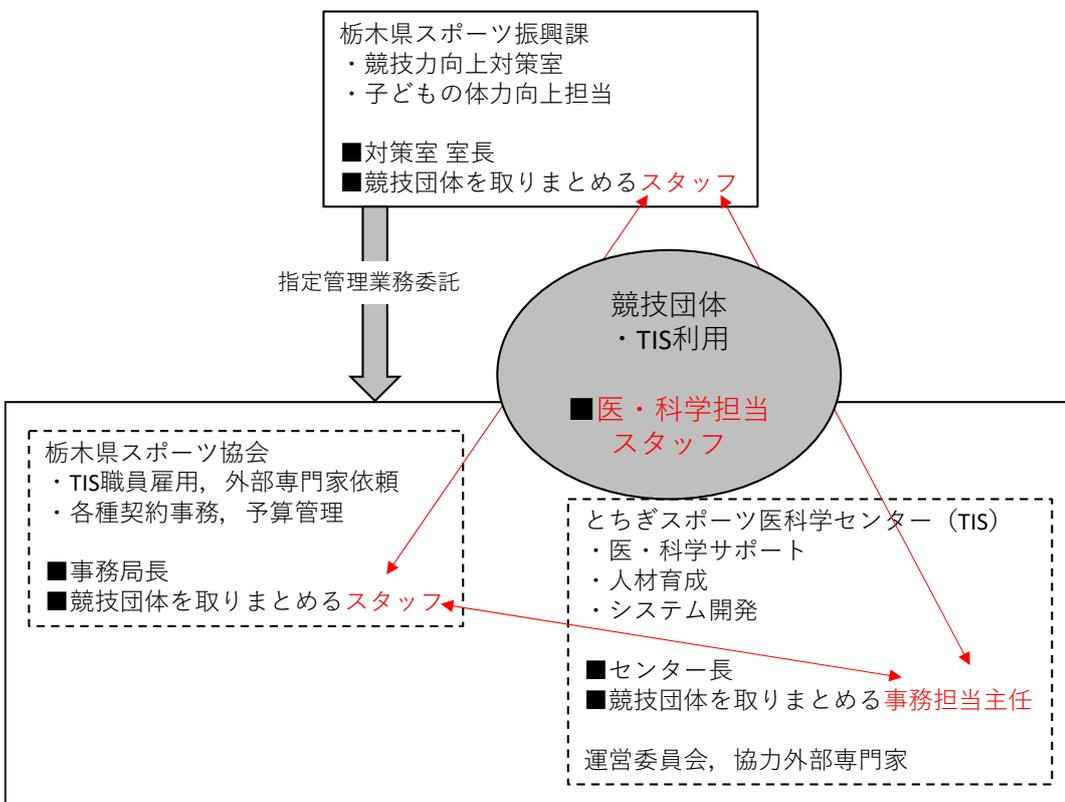


## II. 関連組織との連携

### 1. 関連組織の連携体制

競技団体に関連する組織として、①栃木県教育委員会スポーツ振興課、②栃木県スポーツ協会、③とちぎスポーツ医科学センター（以下、TIS）の3つがあげられる。①スポーツ振興課は、県としての強化方針を定めること、強化費用を配分すること、強化の進捗を評価すること、②スポーツ協会は、TISの指定管理を受託すること、競技団体への帯同トレーナーを派遣すること、③TISは、競技団体に対して直接的に医・科学サポートを行うこと、などをそれぞれ担当している。スポーツ振興課、スポーツ協会およびTISは、それぞれ密接な連携体制をとることによって、一枚岩で包括的なサポートの提供を心がけている。

一方、競技団体においても、団体内での課題の抽出、科学的データの有効な活用などのために、「医・科学担当スタッフ」を配置してもらっている。このことは、競技団体の窓口を一本化していくことに加え、強化および支援の体制を整理してもらうことに繋がっている。



資料 2-1 競技団体を中心とした関連組織の連携体制

### 2. 各組織におけるマネジメントスタッフの重要性

「サポートする側」「サポートされる側」ともに、各組織の取組、要望等を理解し、全体をコントロールする人材の重要性が挙げられる。スポーツ振興課、スポーツ協会およびTISがそれぞれ個別に競技団体へコンタクトを取ることは、競技団体にとって重複した連絡になってしまうことが良くある。各組織が密に連携して、競技団体への連絡を一本化できるように努めるべきである。そのような取組が、現場の選手・指導者を包括的にサポートできる結果につながる人が多い。

一方、競技団体も、各選手が、各所属チームに分かれているなど、窓口を一本化することは難しい状況にある場合が多い。しかし、競技団体として TIS を利用する場合は、その窓口になるスタッフを定めてもらうことが、サポートをうまく進める上で非常に重要となる。

上述のような人材、現場を理解した科学者（TIS 側）、科学を理解した指導者（競技団体側）、すなわち、現場と科学とを橋渡しするような人材を積極的に育成していくことが非常に重要であると考えられる。

### 3. サポート実施までの手順

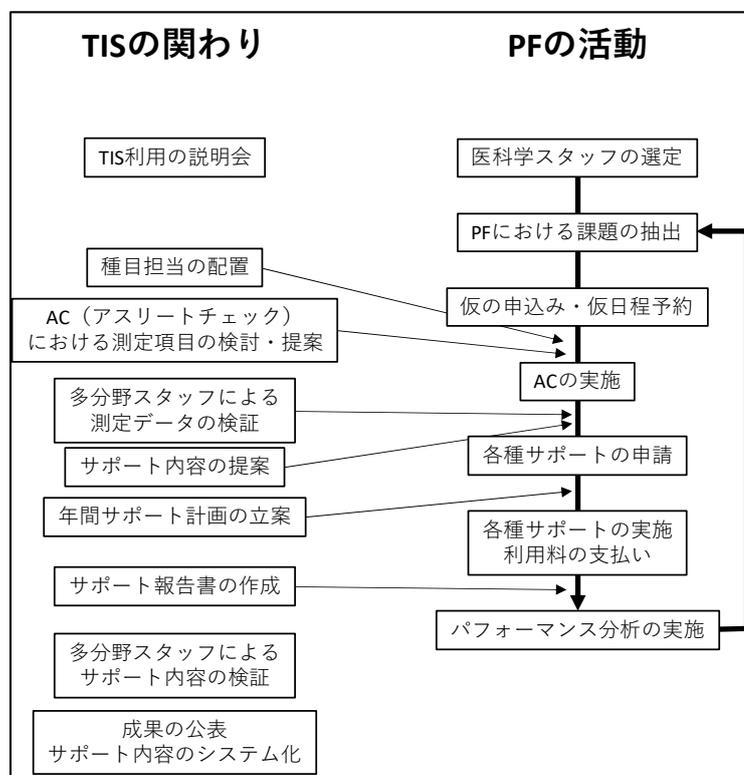
図〇に、PF の活動と、それに即した TIS の関わりについて示した。

年度当初に、TIS 利用説明会を実施し、医・科学サポートを必要とする PF からの連絡をまつ。その後の段階において、PF 内で医・科学担当スタッフを配置してもらい、強化の現場から組織の役員までの意見を一本化してもらったことを説明する。

PF から医・科学サポートの依頼があった場合は、基本的に、アスリートチェック（以下、AC）の実施を進める。スポーツ医学的・科学的なデータを参考に、その後の各種サポートを展開できるからである。

AC 実施後は、得られたデータを基に、多分野スタッフによる検討会を開催し、各選手の課題の抽出等を行う。その結果を基に、選手に測定データのフィードバック、必要な諸科学サポートの提案などを行う。より計画的な強化の戦略、予算の配分などの理由から、PF と協力しながらサポート年間計画を作成・取り交わし、より効果的な医・科学サポートの実現に努める。

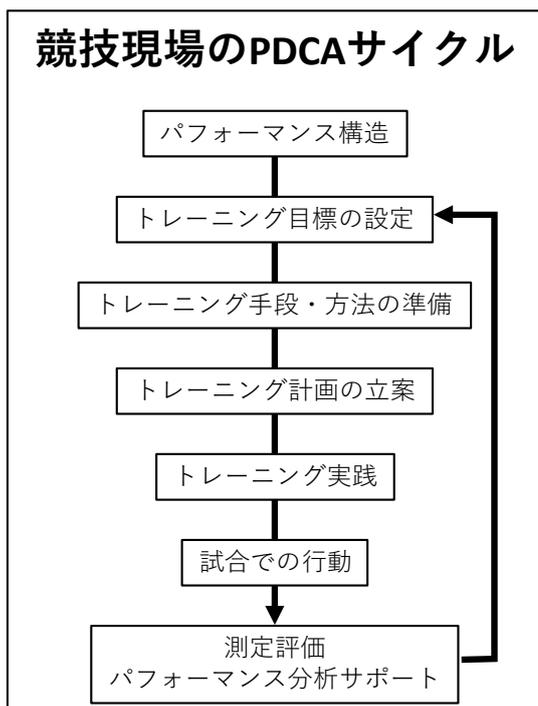
PF が、TIS を有効に活用していくためには、図〇に示したような PF の循環サイクル（課題の抽出から、パフォーマンス分析の実施）を回してもらうことが重要となる。その循環を補助できるように、種目担当は適宜、フォローに入るようにする。



資料 2-2 PF の活動とそれに即した TIS の関わり

## 4. サポートを行う際に配慮すべきポイント（現場のPDCAサイクルを理解し、サポートを実施する）

パフォーマンス分析サポートは、実際の競技パフォーマンスで変化が示された部分を、客観的なデータとして評価し、理解することに役立つ。鍛錬度の高い選手の場合は、測定データを提供するだけで、競技活動に有効に活用してもらえることが多い。一方、鍛錬度の低い選手の場合は、測定データを提供してもそれらの理解が困難であること、その後の強化活動の中でデータ活用が難しいこと、などの課題が多い傾向にある。そのような場合、TIS スタッフ側にも大きな問題があることを認識しておく必要がある。それは、競技現場において日々行われている課題解決プロセス（PDCA サイクル）を理解していないときに、よく見られる状況である。図〇に、競技現場のPDCAサイクルを示した。ここに示した7つのプロセスに関して、科学「的」な視点をもって、競技活動全体を理解しておく必要がある。その上で、測定評価・パフォーマンス分析サポートを実施することによって、PFが求めている真の課題を抽出できること、その課題解決を適切な方法で行えること、現場に即して適切な方法でフィードバックできること、などが実現できると考えられる。7つのプロセスに即した科学的な知見は、パフォーマンス分析のみならず、他分野のサポートスタッフとの連携にも必須となる。競技力に直接的に貢献できるような形で、包括的な医・科学サポートを実施できるように、配慮すべき点であると考えられる（詳細は、TISトレーニング指導マニュアルを参照）。



資料 2-3 競技現場における課題解決プロセス